

9月の安全運転のポイント 平成22年9月号

今年の夏は猛暑であり、9月に入っても暑さが続くことが予想されています。健康管理には十分気をつけ、体調の悪い状態でハンドルを握ることのないよう留意してください。

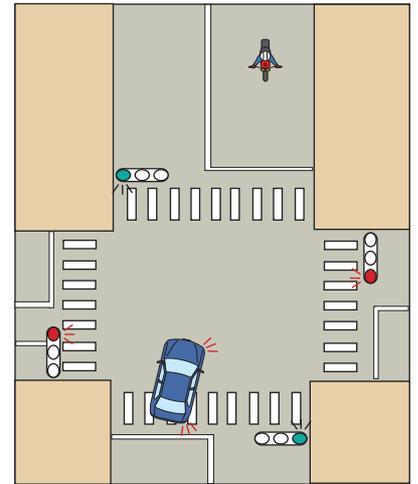
ところで、交通事故は「人」と「車」と「環境」の3つに起因するといわれていますが、大半は「人」に起因しています。「人はミスをおかす生き物」であり、交通事故も主に人（特にドライバー）のミス（ヒューマンエラー）によって発生しています。そこで今回は、運転時のミスについて考えてみましょう。

認知・判断・操作とミス

運転行動は、運転に必要な情報を認知し、それに基づいて判断を行い、ハンドルやブレーキ等の具体的な運転操作を行うという、「認知・判断・操作」の繰り返りで成り立っています。

これを右に示した交差点の青信号右折場面にあてはめてみると、まず、対向二輪車が接近していることを「認知」します。次に、ここで右折すると衝突する危険があるので通過を待とうと「判断」し、その判断に基づいて停止するためにブレーキを踏むという「操作」を行います。こうした「認知・判断・操作」の一連の流れが、状況に依じて的確に行われれば事故は回避できるでしょう。しかし、対向二輪車を見落とししたり、発見していても自車のほうが先に行けると判断したり、停止しようとしてブレーキを踏むつもりが間違えてアクセルを踏むなどした場合に、事故につながる危険性が大きくなります。

こうしたミスはなぜ生じるのでしょうか。その要因を考えてみましょう。



ミスとその要因

ミスの要因にはさまざまなものがありますが、今回はそのなかの心身状態に係る要因と経験や知識に係る要因をとりあげてみましょう。

心身状態に係る要因

心理的要因の主なものとしては、急ぎや焦り、うっかりやぼんやり、過信や思い込み、気の緩みや油断などがあります。身体的要因としては、睡眠不足などによる疲労やカゼなどの疾病などがあります。

経験・知識に係る要因

経験的要因としては、運転経験の浅さによる運転技能の未熟さ、危険予測能力の不十分さ、状況判断の不的確さなどがあります。逆に運転経験が長い場合には、慣れによる別の問題が生じます。

知識的要因としては、歩行者や自転車等の相手の行動特性に対する理解不足や、錯覚（思いちがい）や錯視（見まちがい）等のドライバーの認知特性、スピードと停止距離等の車の特性に関する知識不足などがあります。

こうした要因は、互いに関連している場合も少なくありません。たとえば、疲労がうっかりやぼんやりの原因となり、見落としや発見の遅れなどの認知ミスを招いたり、運転経験の長さによる慣れが油断や思い込みを生み、判断ミスを招くということです。



ミスを防ぐためのポイント

体調を良い状態に保つ

疲れていたりカゼをひくなど体調の悪い状態で運転すると、集中力が低下し、うっかりやぼんやりの原因となるだけでなく、正常な判断力や的確な操作能力もにぶり、「認知・判断・操作」のあらゆる面にわたってミスを招く大きな要因となります。不良箇所がない万全の整備状態が車の安全性の基本であるのと同じように、万全な体調が安全運転の基本です。常に良好な体調の維持に努めましょう。

平静さを保ち、過信をしない

先を急いで焦ったりイライラした状態で運転すると、必要な情報を見落とししたり、状況判断を誤ったりしやすくなります。運転時は平静さを保ち、心に余裕を持つことが大切です。

また、自分の運転技能を過信すると、危険を感じる意識が薄れ、的確な判断ができなくなります。その結果、対向車の直前を右折しようとしたり、強引な追越しを繰り返すなどの無謀な運転行動をしがちです。自分の運転技能を過大評価することなく冷静に評価することによって、運転に慎重さが生まれるとともに、判断もより安全なほうへ向かうと考えられます。

慣れによる油断や思い込みをしない

運転に慣れるということは、安全走行にとって重要な条件ですが、その反面、「慣れた頃が一番危ない」といわれるように、緊張感が薄れて気の緩みや油断の原因になることがあります。

また、慣れは「この交差点では飛び出しはないだろう」といった思い込みの原因にもなります。思い込みは、状況を確認する前に自分の経験や記憶に基づいて判断してしまうという点に危険性があります。それが「だろう運転」にもつながります。事故は、油断や思い込みなど心の一瞬のスキを突いて発生します。走り慣れた道路や乗り慣れた車であっても、決して油断や思い込みはせず、「飛び出しがあるかもしれない」といった「かもしれない運転」に徹しましょう。

安全運転に関する正しい知識を身につける

歩行者（特に子どもや高齢者）や自転車、二輪車には特有の行動（運転）特性があります。それを理解しておかないと、的確な予測ができず判断を誤ることがあります。

また、錯覚などのドライバーの認知特性や遠心力の働きなどの車の特性についても同様です。こうした、安全運転に関する知識を正しく理解することは、認知ミスや判断ミスを防止するうえでの重要なポイントになります。

「ご相談・お申込先」

